

銘柄分析レポート：P E R を用いた投資判断

1 はじめに

皆さんは「株価が割安かどうか」の判断に何を使われていますか？

私も、色々な指標を試してみましたが、結局はベーシックな P E R（株価収益率）に戻りつつあります。

● P E R = 株価 ÷ E P S（1 株当たり利益）

P E R は、収益に対する指標であり、利益の何倍まで買われているかを示しています。「時価で投資を行えば、何年で元が取れるか」と考えてもいいでしょう。

「どれぐらいが適正か」については、金利の水準や相場の状況、業種などで異なり、一概には言えないものの、P E R 1 5 倍がひとつの目安となります。

何らかのビジネス上の「強み」を有する企業であれば、P E R 2 0 倍程度までは許容範囲です。そうはいつでも、P E R 3 0 倍以上になれば明らかに買われすぎといえます。

このように、とってもシンプルな P E R ですが、実際の投資判断に用いる際には注意点があります。それは、E P S の調整を必要とするケースが少ないことです。

好況時には、ほとんどの会社で実力以上の利益が出るため、E P S を割り引いて考える必要があります。

一方、不況期には、本来の実力を出せない会社が続出するため、E P S に下駄をはかせる必要があります。一時的な業績不振に陥っている銘柄も同様です。

また、少数派ながら、景気の影響をほとんど受けず、E P S をそのまま使用できる銘柄もあります。

今回の銘柄分析レポートでは「一見シンプルだが、実は奥の深い」P E R を用いた投資判断を取り上げます。